



PROFILE

真田辰男 (敦賀市在住)
Tatsuo Sanada
敦賀市相生商店街で商店を営む傍ら、「晴明の朝市」に立ち上げから参画。現在も晴明の朝市実行委員会のメンバーとして、地域の活性化に向け幅広く活動している。

「朝市を盛り上げて
街に、人に、
活力を取り戻したい」

安倍晴明ゆかりの晴明神社に近い相生商店街。ここでも月に一度開かれる「晴明の朝市」は、毎回多くの人で賑わいを見せる。「敦賀はかつて北前船による物資の流通拠点でした。この商店街も江戸時代から商業地として栄えた歴史があるんです」。そう話すのは、晴明の朝市実行委員会の真田辰男さん。

「晴明の朝市」の歴史は100年を越える。明治時代、行人商たちが晴明神社近くの軒先で農

産物などを売るようになったのがそのルーツ。大正5年には公設市場ができ、毎日朝市が開かれて街は活気にあふれていた。そんなかつての賑わいを取り戻そうと立ち上がったのが、相生商店街の面々だった。「朝市を復活させて、敦賀の中心街に再び人を呼び込もうというのが発端。6年前からスタートしました」。

毎回、朝市には40前後の店が軒を連ねる。地元の商店はもちろん、他の市町や県外からの出店もあり、通りの両脇には所狭しとさまざまな商品が並ぶ。「朝市の魅力は、作り手の顔が見



新快速乗り入れを記念して開催された『安倍晴明と平安時代衣装行列ショー』

えること。昔のように気軽に言葉を交しながらの買い物は、お客さんも楽しく、安心できるのではないのでしょうか」と真田さん。実行委員会のメンバーはお客さんとの

ふれあいを大切にしている店主たちだけに、もてなしの精神は旺盛。季節ごとにイベントを開催するなど、魅力づくりも欠かさない。今年10月の新快速乗り入れの際にも記念イベントを開催し、祝賀ムードを盛り上げた。

そんな努力が実り、朝市は開始の1時間前から人が並ぶほどの人気。滋賀や京都など遠方から足を運ぶお客さんも多い。この賑わいをさらなる観光促進につなげようと、朝市の日は通りに面した市立博物館・山車会館を無料開放する試みも始まった。また、商店街の一面に残る古い町屋を活

用し、昔ながらの街並みを再生させようという取組みも進行中だ。「朝市の再開をきっかけに、地元が結束が強まりました」と笑顔で語る真田さん。朝市は着実に地域と人々の心に活力をもたらしている。「6年間、休まず地道に続けてきたことで皆さんから注目していただけるようになったのだと思います。大切なのは続けていくこと。そして、常に新しいチャレンジをすること。今後は特産品などの開発にも力を入れたいですね」。地域への熱い思いが詰まる「晴明の朝市」は今日も盛況を見せている。



通りには農産物や海産物、花苗木など多くの店が並び、「市」ならではの活気にあふれる



新快速乗り入れ後は観光ツアーが生まれ、京阪神から多くの観光客が訪れている



空き家になっていた古い町家を活用して作られた観光スポット『紙わらべ資料館』



「晴明の朝市」
場所／敦賀市博物館通り
日時／毎月第3日曜日 8:00～12:00
問 (社) 敦賀観光協会 tel.0770-22-8167